

**Q** 市はこれからの農業振興をどのように進めるのか。

**A** これからは対象を担い手に絞り、農林振興課にはJ A雲南の専門職員を配置、県普及部とも連携し、集落をどう守り、安定した収入を維持していくにはどうしたらよいか検討していく体制をとっている。

**Q** 厳しい財政状況の中、企業誘致等雇用場の確保に努められるが、農業の面では後継者対策が図られておらず、今後の継続、また、農地の荒廃等不安である。今後この傾向は進む

## 多様な地域資源を活かした産業が発展するまち



**Q** 防犯灯の設置については、設置していただけないケースもあるが、通学路などを優先し安全対策を講じてほしい。

**A** 防犯灯については、自治会と自治会との境目や民家のとぎれたところなどが心配されるところだと思う。そのため、整備については、予算の制限もあるが、子供の安全を第一に考え、また危険個所の調査結果も踏まえ、緊急なところから対応していきたい。

**Q** 青少年健全育成については、あいさつ運動・夜間パトロール等実施していますが、交通安全協会、駐在所、民生児童委員等の守備範囲が地区と異なるので対応に苦慮している。この行

**Q** 産業振興センターを設立したが、農業面においてはアドバイザーとして県職員OBの方に就任頂き、アドバイスをいただいている。雲南市としても担い手振興室を設置し、検討しており、今後の方向性として集落営農組織がふさわしいと考えている。また、雲南地域1市2町で雲南地域担い手育成総合支援協議会を立上げ、集落営農組織等担い手の育成を検討している。

## 行財政改革、財政状況など

**Q** 公債費の現況と将来的にどうなるのかお聞かせ願いたい。

**A** 公債費は今後平成21年にピークを迎え、平成21年を過ぎると減少している。現在は合併までの借入金返済している状況である。雲南市になり、普通建設事業を極力抑えることによって、公債費の総額を抑える努力をしている。現在は貯金を取り崩して予算を組む状況ですが、貯金を取り崩さないでもやっていける状況にもつていかなければならないと考えている。そのために職員の削減や各種補助金を削減するなどしていく必要がある。また、各町にある同じような施設を統合し、物件費を抑えるなど、行財政改革を進めていく。子や孫にツケを残さない雲南市にしていくために今後も努力を続けていく。



**Q** 国民1人あたりの借金が700万円と聞くと、財政難解消のための経費の削減等についてはしつかりとした気持ちで取り組んでいただきたい。

**A** 財政難解消については、抑制すべきは抑制し、取り組んで行きたい。市職員の削減はどのような方法で行うのか。

**A** 現在、退職者の1/4を新規採用しているが、基本的に退職不補充という考えで対応する。

**Q** 指定管理者制度の今後の計画、また現在の状況を教えてください。

**A** 条件が整ったものから制度へ移行しています。まだ競争の原理までは働いていませんが、今後、そういった施設があれば移行していきたい。

**その他意見として**

■ 毎月の税等の領収書について、毎月の80円分を廃止したことは非常にいいことだと思う。こういった業務改善をどんどんしていただきたい。

■ 合併して、総合センターの職員の態度が大変丁寧でやさしく感じがよい。

■ 現在の雲南市でどれぐらいの障害者雇用が達成されているか分からないが、暮らしやすいまちにするためにも、誘致する際は一言お願いしていただきたい。

■ 誘致企業の撤退、J A等事業所の人数も少なくなり寂しい思いがしている。中心部の発展はもちろんであるが、周辺部も合併してよかったと思えるまちづくりをお願いする。

**まとめ**

この他にも懇談会へ参加していただいたみなさんからたくさんのご意見やご提言がありました。

懇談会に寄せられたご意見やご提言、その回答につきましては、市ホームページにも掲載する予定です。

市では、みなさんから寄せられたご意見やご提言を新しいまちづくりを活かしていきます。

懇談会へ参加していただきありがとうございました。

**Q** 雲南総合病院の管理者としてもこの問題について非常に憂慮している。医師不足について特に顕著なのが内科の医師で、医師が一番多い時で10人だったが今は6人となった。できるだけ10人の医師が確保できるよう島根岡山両大学医学部や島根県と交渉して



**Q** 老人医療改正について市長の見解を伺いたい。

**A** 老人医療改正に対応するために何ができるかを考えねばならない。医療費を抑制するためには、病気をしないよう心掛けることが重要であると思う。そのため市では今年度から身体教育医学研究所うんなんを設立し、生涯現役のまちづくりに取り組んでいる。

**Q** 医師不足解消について市長さんのご努力をお願いしたい。

**A** 雲南総合病院の管理者としてもこの問題について非常に憂慮している。医師不足について特に顕著なのが内科の医師で、医師が一番多い時で10人だったが今は6人となった。できるだけ10人の医師が確保できるよう島根岡山両大学医学部や島根県と交渉して

**Q** 定住対策にも繋がることではないかと思うが、市内学校の児童生徒のふるさと教育をぜひ進めてほしい。また、ふるさと教育を進めるうえで郷土資料としてビデオ作成など検討していただきたい。

**A** ふるさと教育は、平成17年度から県内全域で取り組んでいる。学校地域、家庭が一体となって事業が進められており、市民が先生として授業を行うなどしている。地域のみなさんと一緒に、地域の子どもを育ていくためにも開かれた学校をめざしていく必要がある。地域のみなさんご意見や協力をいただながらこの事業を進めていきたい。

**ふるさとを愛し、豊かな心を育む教育と文化のまち**

**Q** 子どもたちへのお金の投資、つまり教育関連施策への予算配分をどう考えているのか伺いたい。

**A** 教育にはしっかりと投資するべきだと考えている。教育分室をなくしてさらに効率的な教育施策を進めたり、教育支援コーディネーターを配置し学校と地域、家庭のネットワークを強化したりしている。

**Q** 子どもの居場所づくり事業が本年度で終わると聞いたが実際はどうなのか。

**A** こどもの居場所づくり事業について、今年度は小中学校から高校までを包括して活動を行うようにしている。この事業は、文部科学省・厚生労働省で平成19年度以降も延長される予定であり、「子育てするなら雲南市」であると言われるよう頑張りたい。

**Q** 小学校の廃校等による跡地利用はどうするのか。

**A** 保育所、学校跡地の利用に関しては市が決めるのではなく、地域のみなさんの利に供するためにやっていかなくはならないので、どのように活用したらよいかということを地域自主組織を中心に協議していただきたい。市としては十分相談に乗りたい。

